

# 一ノ瀬篤先生の御退職に当たって

経済学部長 梅 本 哲 世

一ノ瀬篤先生は、2010年3月末をもって桃山学院大学を定年退職されます。『経済経営論集』の月号は、先生の退職を記念して発行されるものです。

先生は、1967年3月に神戸大学大学院経営学研究科修士課程を修了、さらに1971年3月には大阪市立大学大学院経営学研究科博士課程を単位取得退学されました。その後、広島修道大学教授、愛媛大学教授、岡山大学教授を歴任され、岡山大学では経済学部長に就任されています。2001年4月には岡山大学名誉教授の称号をおくられました。この間、1983年に商学博士（大阪市立大学）、1998年に経済学博士（神戸大学）と2つの学位を取得されています。2001年4月に桃山学院大学経済学部に教授として赴任されました（国際金融論担当）。本学では、2003年に経済学研究科長および大学評議員に就任されました（任期2年）。

先生は金融史・金融政策史を中心に精力的に研究を積み重ねてこられました。現在にいたるまで、2冊の単著、5冊の共著・編著、81本の論文など、膨大な研究業績があります。先生の研究業績は、イギリスの国債とスタグフレーションの研究、戦後の日本銀行の金融政策に関する研究、バブルに関する研究など、歴史と現状分析の幅広い分野にわたっています。学会活動においても信用理論学会理事、日本金融学会理事などを歴任され、金融関連の学会のなかで中心的な役割を果たされています。

先生は研究だけでなく、教育にも熱心に取り組まれました。私にとって非常に印象的だったのは、2006年度の経済学部研修教授会で、ご自分の教育の取り組みを報告されたことです。その報告から、学生の教育について試行錯

誤をされながら真っ正面から取り組んでおられることがうかがえて、頭が下がる思いでした。現在進めている学部改革についても、教授会の討論で先生から積極的なご意見をお聞きすることができました。教育に対する先生の情熱は、我々が今後一層学び受け継がねばならないことであると痛感しています。

先生は『経済学部干柿教授』というエッセイ集を単行本で出しておられます。その中に「歌に生き酒に生き」というくだりがあります。先生は大学生の頃から合唱団で声楽をやってこられました。神戸のある合唱団に入ってから仲間と「男声カルテット」をつくれ、2004年から定期的にコンサートを開かれています。私は2005年に、舞子ビルで開かれた第2回コンサートを聴かせていただきました。楽しそうに歌っておられる一ノ瀬先生の姿がとても印象的でした。

先生は岡山県の熊山町に畑と家を持っておられ、ご自宅の芦屋から定期的に通っておられるようです。熊山での晴耕雨読の生活は、エッセイ集の最後の部分に詳しく書かれています。一ノ瀬先生の穏やかなお人柄と生活が文章からうかがえて、ほのぼのとした気持ちになります。

一ノ瀬篤先生におかれましては、ご退職後も健康にご留意いただき、一層のご活躍をなさいますようお願いいたします。また、これからも変わらぬご指導をいただきますようお願い申し上げます。